

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200896		
法人名	株式会社 クリエイト		
事業所名	グループホーム久慈浜 2階		
所在地	〒319-1222 茨城県日立市久慈町3-4-14		
自己評価作成日	平成29年 9月28日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム敷地内の畑では入居者が土を耕し野菜や果物を育て収穫し職員が調理し食事やおやつ
の時間に提供している。
2回/年の消防署立会いで総合訓練を行うほか毎月、地震発生による津波、ゲリラ豪雨による洪水、
近隣火災、竜巻等々の想定で訓練を入居者様と一緒にしている。
定期的に内部研修を行い入居者様に対して不適切なケアが行われていないか振り返り職員会議等
で話し合っている。又、職員間の名前も、あだ名やチャンづけで呼ばず全員さんで呼んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階事務所に掲示してあり毎朝申し送り後に職員全員で理念3項目を唱和し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	久慈小学校の運動会を見学、地元のフェスティバル参加したりしている。久慈町探検では小学2年生が1回／年ホームを訪問に来て入居者様との交流をされている。散歩中近くの店の方に話しかけられ買い物をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民に声をかけて応急手当救命講習に参加して頂き消防署員、救急救命士からAEDの使い方や消火器の取り扱い方法を共に学ぶ機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回／2ヶ月(偶数月の第3金曜日)2階事務所にて開催。議事録を作成し連絡事項、指摘事項等あれば職員全員祖の都度伝えられている。又、玄関内に掲示し誰もが見られるようになっており御家族様へも送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市社協の介護相談員が来所されている。1回／2ヶ月の運営推進会議には毎回出席して頂いている。市の事業者懇談会、連絡会に参加して意見交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に施設内研修を行ったり施設内に身体拘束防止のポスターを掲示し職員全員が拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては入居者様の離脱もあり御家族様全員から了承を得ているが工夫をし 解錠する日を増やしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行ったり虐待防止のポスターを掲示し職員全員が意識付けをしている。入居者様へのケアが不適切になっていないか 虐待に繋がらないか職員会議等で話し合いを持ち防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、施設内研修等で学ぶ機会を持ち今までも成年後見制度の手続きの支援を行っており現在も利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけて不明な点がないように説明をして納得されてから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、イベント等で御家族様から意見、要望を聞いている。それらを申し送り等で話し合い記録に残している。又、玄関には意見箱を置いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月の職員会議や朝・夕の申し送り時、週間報告書等で意見や提案を確認し反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週間報告書の提出、外部研修参加等が賞与に反映されること各種資格取得により手当が付く事等を伝え向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回/月、研修係りから配布された資料で施設内研修を行っている。施設外の研修は職員会議で連絡したり事務所内に案内資料を置き参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと運営推進会議の委員として互いに出席している。 花見、花火大会、応急手当救命講習等で他のグループホームと交流をしている。事業者懇談会で他事業所と意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に対して不安が無いか確認し安心して入居出来るよう入居前の見学をして頂いたりして 相手を理解しニーズに応えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に施設、他入居者様との関係性に対して不安や要望等を聞きだして少しでも払拭できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行い、そのとき先ずは何をしたら良いのかを皆で話し見極めてサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、下膳、食器洗い、食器拭き、米研ぎ、選択干し、選択たたみ等々出来る事は行って頂いたり一緒に行っている。 又、おやつ作りうどん作り等も一緒に行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	好きな時間に面会、外出、外泊が出来る。ご家族以外の方との面会もあり懐かしんで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は設けず、いつでも面会が出来るようにし居室、食堂で過ごして頂いている。ご家族様と一緒に外食、墓参り、法事等にも出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席を調整し相手と楽しく会話出来るように注意をしている。又、一人で居ることの無いように目配りをする。1・2階自由に行き来が出来 イベントも含め交流することも出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等で会って御家族様から報告を受けたり 相談があれば、その都度受けて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、それぞれ受け持ち入居者様の希望を聞き把握し共有している。困難な場合は御家族や会話が可能だった頃の言動を元に検討を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメント表を使い本人、御家族様分かる範囲で今までの事を聞きだして記録に残しサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に沿って介護記録に記入している。 バイタルサイン、食事、水分量、排泄、睡眠等の記録も行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当がアセスメントを行い課題を出して本人、御家族様の要望を聞き計画作成担当者と話し 職員会議の後、他職員に報告し意見を聞き介護計画を作成している。状態変化時は、その都度見直しを行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受け持ち担当はいるが毎日、日勤者で当日の担当者をリーダーが決め管理日誌に記入。介護計画に沿ってケアを実践している。又、申し送り時連絡帳等で職員の情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望でコンビニエンスストアや商店に買い物に出掛けたりしている。希望者は歯科の往診を受け散髪も施設内で行っている。1階に置いてあるエアロバイクはいつでも使える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防署、交番に協力を仰いでいる。車椅子での通院時は介護タクシーを利用し買い物も地元のタクシーを利用している。図書館、商店の利用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望で病院を決定している。かかりつけ医の定期、緊急受診に応じて頂いている。協力歯科医により毎週口腔ケアを行い義歯の調整等も行って頂いている。毎年インフルエンザの予防接種を施設内で行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時、変化がある場合は直ちに報告し指示を仰ぎ状況によっては急患で病院受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、	入院時・後は面会に出向き、その都度看護師等に状態を確認し把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応にかかる指針」 「看取りに関する指針」を作成している。 終末期は、それぞれ違いがあるので施設で出来ること出来ないことを医療側と進めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、施設内・外で応急手当救命講習を受講しており何時何処でも急変時の対応が出来るようAEDも含めて訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年消防署立会いで総合防災訓練を行い指導を受けている。実施前には近隣住民に案内を出している。毎月、夜間想定等何かしらの避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でもプライバシーに損ねない言葉掛けの対応をし記録についても入居者様の名前はイニシャルで記録している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉、音量、仕草等で伝えて自己決定を行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい過ごし方が出来るよう何をしたいのかを見聞きし決められない入居者様に対してはいくつか提案し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に、女性入居者様の入浴準備は自身の好む服を選んで頂いたり服装の乱れ季節に応じた服を着て頂くようさりげなく伝える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら行ってくれる入居者様や声掛けにて行って下さる入居者様と一緒に調理、下膳、片付け等トラブルにならぬよう行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者がカロリー計算した献立になっている。水分量は毎日チェックし記録している。1回/月月初めに全員の体重測定を行い食事量を調整している。嫌いなメニューには代替品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声掛けや見守りで行い自らが出来ない入居者様には介助にて行っている。1回/週、歯科医により口腔ケアを行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、失禁を含め排泄の記録を行い尿意等の訴えが困難な入居者様のサインを見逃さないよう声掛けにてトイレに行きパット等の使用を減らすようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはオリゴ糖を使用したり身体を動かしたりして対応している。場合によって医師と相談して下剤を処方されている入居者様もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度15時位からを目安に入浴して頂いているが汗をかいたり希望があったり状況に応じて何時でも入浴できるようになっている。自立している入居者様でも見守りは必ず行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護記録に睡眠時間を記入し状況に応じて昼寝をしている。入居の際に馴染みの寝具を持ってきて使用して頂いている。短時間であるがエレベーター前のソファで休む入居者様も居る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病院受診時おくすり説明書にて確認しており変更があった時は使用してからの変化等を記録に残している。服薬チェック表を使い飲み忘れ等無いよう確認もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を聞き、家事、将棋、歌、点結び等その都度意欲的に行えることを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所の商店への買い物は日常的に行っている。季節に合わせて花見、花火、家族会、外食等外出の機会を作っている。希望者にはホームセンターでの買い物や商店コンビニエンスストアにも出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様には御家族様確認し所持してもらっており近くの商店等で菓子類を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の姉妹から手紙が届き本人が懐かしんだり御家族様と外出時に電話連絡したりしている。又、入居者様全員が年賀状を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や洗面所に庭で咲いた花等を飾っている。時期や季節に応じて加湿器、コタツ、トイレ脱衣場でのヒーターを使用している。施設内は日勤帯でBGMが流れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室、エレベーター前のソファ等々それぞれ好みの場所にて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただき自分好みのレイアウトにしている。本人の使用していた机や本日も持ち込んでいただき過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室前には「ゆ」の暖簾を掛けて男性入居者様入浴中の表示もする。トイレのドアへは場合によって「トイレ」の表示もする。居室、トイレ等には呼びだしボタンがあり廊下は手すりを伝って歩行の訓練も行える。		